

# いざ

# という時に備えて

## 岩見沢市洪水ハザードマップを作成



昭和56年8月に  
起きた水害



作成した  
岩見沢市洪水ハザードマップ

市は、安全・安心で快適に暮らせるまちづくりを実現するために様々な施策に取り組んでいます。

特に防災は、「自助・共助・公助」を柱として、防災出前講座による防災対策の啓発活動や自主防災組織の育成、市民が参加する防災訓練の実施、各種企業との災害協定の締結など、万が一の災害に備えて取り組んでいます。

しかし、地震や台風などの自然災害は、人間が思うようにはならないことが多く、そのためにも災害に対する正しい知識を持ち、日ごろから災害に備えておく必要があります。

また、いざという時は正しい情報により迅速に対応することが、被害を軽減すること（減災）につながり

問合せ先  
市住民自治・安全安心推進室

重要なことなのです。



### 過去の教訓をいかして

市は、石狩平野に広がる緩傾斜地に覆われ、昭和50年・56年の台風による大雨で河川がはん濫し、多く

の被害が出るなど、昔から水害による多くの被害を経験してきました。また、近年は局所的な集中豪雨などの異常気象による水害も見られるようになってきています。そこで、国は大雨による河川災害に対する対策を講じるなかで、市内

を流れる5つの河川を指定し、浸水想定区域図を作成しました。これを受けて市は、地域説明会を開催し、市民の皆さんの意見を聞くなどして、防災に対する事前準備と、いざという時の迅速な避難行動にいかしていただくための岩見沢市

洪水ハザードマップを作成しました。

是非、活用してください。

洪水ハザードマップとは

台風などの大雨により河川が増水し、堤防が決壊するなど起きる水害に対して、人的被害を軽減することを目的に作成した地図です。

岩見沢市洪水ハザードマップでは、市内を流れる石狩川・幾春別川・夕張川・幌向川・利根別川の各河川の堤防が決壊した時の浸水範囲・深さの最大値を想定した浸水想定区域図に避難場所等を記載しています。

また、地図面は岩見沢地区西部、北村地区、栗沢地区西部、東部地区の4つに分割して作成しています。

## ハザードマップQ & A

Q 洪水ハザードマップの効果はどのようなものですか？

A 前もって災害による被害の危険性を知ること、普段から災害に対する危機意識を持ち、何をすべきか、何が必要かなど、事前に考える余裕ができます。

また、災害が発生した時に冷静に判断したり、避難行動をとったりすることができるなどの効果が考えられます。

Q いつ避難すればいいのですか？

A 市から避難勧告・避難指示等が発令された場合は直ちに避難が必要です。ただし、テレビやラジオなどの気象情報や河川の増水状況などで、自らが危険と判断した時は、自主的に安全な場所に避難してください。

Q 洪水ハザードマップに掲載されている地区以外に浸水する箇所はありますか？

A この洪水ハザードマップは、国と北海道が100年から150年に1回程度降る大雨（3日間に260mmから310mmの雨量）を想定して作成した「浸水想定区域図」を基にしています。近年の局所的な集中豪雨などの異常気象により、想定を超える大雨が降った場合には、掲載されている地区以外にも浸水する可能性があります。

Q 「浸水想定区域図」とはなんですか？

A 浸水想定区域図とは、国や北海道が洪水予報河川や水位周知河川に指定した河川が、大雨によりはん濫した場合に、浸水が想定される区域と深さを示した図です。

Q 一度の大雨で、洪水ハザードマップに示されている浸水想定区域全域が浸水するのですか？

A 洪水ハザードマップは、河川の堤防を百数十箇所決壊させたデータの一つにまとめたものです。当然、堤防の一箇所だけが決壊した場合は、浸水範囲が狭くなり、浸水しない地域もあります。

一度の大雨で全ての堤防が決壊することはあり得ないので、浸水想定区域全域が浸水することはありません。

Q 大きな河川の支流などのはん濫は想定されていないのですか？

A 今回配布した岩見沢市洪水ハザードマップは、石狩川・幾春別川・夕張川・幌向川・利根別川がはん濫した場合の浸水想定区域を示しています。

この他に、市内には、旧美唄川、清真布川などの国や北海道が管理する河川がありますが、これらの河川における浸水想定区域図は作成されていません。

市は、各河川の浸水想定区域の指定がなされた場合、洪水ハザードマップを改定するなどして、市民の皆さんにお知らせしたいと考えています。

4つの地区の区域図

